

ふくしま結婚・子育て応援センター の活動



はぴ福なび

詳しく述べ
はぴ福なび 検索

お互いの条件がマッチした方の紹介状を
パソコン・スマートフォンへお届けする「オンライン型紹介システム」です!
お手持ちのパソコン・スマートフォンから簡単申し込み!
条件の合致したおふたりに紹介状を配信します。
「紹介」後、お互いがOKすれば「お見合い」「フレ交際」「真剣交際」と進みます。

費用 入会登録料 10,000円(税込)「有効期間 2年間」
月会費、紹介料、成婚料などの費用はかかりません。

※はぴ福なびは、マッチング・ご成婚を確約するものではありません。紹介がない場合もございます。
あらかじめご了承ください。

世話やき人制度 相談無料

世話やき人とは結婚を希望している方を応援するボランティアです。
県内各地で、結婚に関する相談、お相手探し、引き合わせ(お見合い)などの支援を
しています。

※お申し込みの場合は、センターホームページの世話やき人リストを参照し、どなたか一人にお問い合わせください。
※世話やき人制度は、紹介・ご成婚を確約するものではありません。
紹介がない場合もございます。あらかじめご了承ください。
※「世話やき人」になってくださる方も募集中です。詳しくはセンターへお問い合わせください。

「はぴ福なび」「世話やき人制度」はダブル登録可能です

[妊娠・出産、子育て]

子育て支援のイベントを行っています

センターのある「福島県青少年会館」にて、
子育て支援を行っています。

福島県助産師会の助産師や、保健師や保育士の資格を持つ
「世話やき人」が皆さんの子育てを応援します。

詳しい内容や日程等は、センターホームページをご覧ください。
世話やき人による相談もできます。詳しくはホームページで。

ふくしま結婚サポーター
企業・団体等を募集しています

ご協力いただく内容

- 従業員向けの周知広報の協力(チラシの掲示等)
- 顧客向けの周知広報の協力(チラシの掲示等)
- 従業員が結婚・子育てしやすい職場環境づくり
- はぴ福なび出張登録会への協力
- はぴ福なびの待ち合わせ場所としての登録

※いずれか一つでも差し支えありません。

詳しくはセンターへお問い合わせください。

問い合わせ先

**福島県 保健福祉部 こども未来局
こども・青少年政策課**

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号 福島県庁西庁舎7階

TEL 024-521-7198
FAX 024-521-7747 kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構
ふくしま結婚・子育て応援センター

〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5 福島県青少年会館内

TEL 024-544-0070/0071
FAX 024-544-0072 f.siawase-ouen@clock.ocn.ne.jp

ふくしま 結婚応援 フォーラム

一人でも多くの希望をかなえるために、新たな連携へ

【報告書】

■日時／平成29年9月17日(日) 13:00～16:00

■会場／ビッグパレットふくしま コンベンションホールA

■プログラム

第1部 13:00～13:45
『一生一緒にいるために～嶋川家の場合～』
植野 佳奈 氏、嶋川 武秀 氏 ご夫婦

第2部 基調講演 13:45～14:30
『少子化、人口減少時代の若者応援 「働き方改革」で社員のワークとライフを応援しよう』
講師：白河 桃子 氏

第3部 パネルディスカッション 14:40～16:00
『しあわせな結婚を応援するために～それぞれの立場から～』
ファシリテーター：西内 みなみ 氏
パネラー：植野 佳奈 氏／渋谷 順子 氏／佐藤 英明 氏

■主催／福島県、公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構(ふくしま結婚・子育て応援センター)
■後援／福島県市長会、福島県町村会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、
福島県中小企業団体中央会

第1部 13:00~13:45

『一生一緒にいるために ～鳴川家の場合～』

植野 佳奈 氏、鳴川 武秀 氏 ご夫婦

プロフィール

●植野 佳奈(うえの かな)
2002年、大学卒業後、三遊亭楽太郎(当時)のマネージャーとして芸能事務所に就職。2010年「株式会社オフィスマキナ」を設立。急成長を遂げる。

2012年、「母心」の鳴川武秀と結婚。一児の母。

●鳴川 武秀(しまかわ たけひで)
2008年に福島県でお笑いコンビ「母心」結成。愛称はオカン。2012年、花形演芸大賞銀賞受賞。2014年、漫才新人大賞受賞。



結婚してるかどうかも確認せずに
結婚してくれって言ったの。
一即答で、はいと答えました。

◎鳴川：結婚応援フォーラムということでね。「一生一緒にいるために～鳴川家の場合～」ということで、結婚に関してお話をさせていただることになります。最初に私から言いたいことは、結婚してどうかというと「幸せ」です。なので、結婚を考えいらっしゃる方はした方がいいですね。それをもとにお話をさせていただけたらなと思いますが、何から話をしますか。

◎植野：では、二人の出会いから。私がリビング新聞(郡山・福島)に連載を持たせていただいているので、既にちょっとご存知の方もいらっしゃるのかなと思うんですけども、出会いについては私が話すよりも多分あなたが話す方が面白いんで。

◎鳴川：結婚をして、今年で5年目になるんです。ちょうど丸5年ですね、12月で。もともと私個人のことで言いますと、吉本興業というところに所属してまして、福島に派遣をされたんです。福島が元気になれば、笑いで盛り上げよう、ということがきっかけで福島に来たんですね。で、吉本を辞めて独

立をしてポンガーズという集団を立ち上げました。5年ぐらい経ったところで、とにかく福島で頑張ろうと思っていたもんですから、当時は結婚についてひとつも考えていなかったんです。メンバーという仲間がいたので。とにかく私、自分の幸せを取るよりもメンバーの幸せが一番大事なことだったんです。意識するようになったのは、震災がきっかけだったんですね。震災の時に一番よく出た言葉は家族の絆という言葉でした。当時の相方は結婚していて子どももいたんです。福島がこういう状況で福島に住んでいましたから、ほんとにこの「家族」ということを相方は考えたんですね。その時は私、独り身だったもので分からなかったんですよ。とにかく家族の絆とか、こういう状況の時に家族がいたら自分は強くなれるとか。そういうことから、震災をきっかけに結婚というのを少し意識をするようになりました。そして、とにかく福島を元気にするために私は芸人としてもっと売れなきゃいけない、有名になるためにはやっぱり東京でも活動しなきゃいけない。ということで震災をきっかけにその年の暮れからですね、浅草だったらあのオカンキャラなら活けるだらうと思いまして、それで浅草に通うようになったんです。浅草の漫才協会というところに所属をしまして、そしたらその中に漫才新人大賞というお笑いのコンテストがあって、まずはそこで決勝戦に行って名を上げることが一つの目標だったんですよ。まだ福島でやってた地方芸人みたいなもんですから、なかなか名を馳せる機会がなかったんですが、なんとうまいことですね、決勝戦に残ったんですよ。国立演芸場というのがありますね、そこで初めて舞台に立ったんです。もちろん、オカンの格好ですよ。もう東京じゃ母心というのほとんど知られていなかったので、決勝戦で母心を知つてもらいいチャンスだと思って。で、決勝戦をうちの社長が見に来ただんです。落語家の師匠ばかり扱ってる事務所ですから、なんかちょっとね、若手芸人もいた方が事務所としては将来性もあるし、ちょっといい若手芸人いないかな?って探してたんでしょ。

◎植野：そうです。そうです。



◎鳴川：ちょっと金になりそうな。それで、たまたまその決勝戦を見に来てて。それが終わった後なんですけど、私、事務局の方から円楽師匠の事務所の社長さんが挨拶したいそうだから、と呼ばれたんです。あ、やっぱり東京ってチャンスがあるんだと。こういう決勝戦に出るとそういう形で広がるんだと思いまして、それで意気揚々と向かいました。円楽師匠ってテレビでしか見てなかったんで、恐らく、私の想像ですけど、社長というおじさんが来ると思ったんですよ。ね、そうでしょ。はい、じゃあご挨拶ってロビーに出て行ったら、待つてたのがこの方だったんですよ。で、見た時におじさんっていうイメージがあったからギャップが激し過ぎて、ウソだろ?と思って。話を聞いたら、昔マネージャーをやってて、先代が引退をされるということでそれに合わせて跡を引き継ぐ形で円楽師匠と一緒に会社を興して、社長として切り盛りしてるんですっていうことでした。そして、挨拶で名刺交換して、それ1回だけ。それも数分でしたからね。で、きれいな人だなと。東京で活動するきっかけができたな、なんて思って。私が福島で活動してるって言つたら、じゃ福島に一回見に行きますということになりました。福島駅のエスパルという駅ビルで毎月ライブやっていましたので、仕事のついでにちょっとだけ見に来たんですよ。5分ぐらいだね。

◎植野：5分もない。ほんとに会って、一言、二言。ありがとうございましたって挨拶をして。

◎鳴川：あ～、やっぱり忙しい人ってパッと来てパッと帰るんぐらいに思って。で、3回目に会った時は、せっかくですから、人となりをね、分かるようにするために一緒に食事をしましょうという話になったんだね。それも期間にしてだいたい2週間以内ぐらいの話ですよ。最初に決勝戦で会つてから。その年はね、私優勝できなかつたんですよ。決勝戦に出られたということでチャンスをもらって、それで1週間後ぐらいにライブを見に来て、じゃあ1週間後に食事をしましょうという。なんか私は意識しちゃってたんですよ。会つて歳はいくつですか、出身大学どちらですか、地元はどこですかって聞いたら、歳は年下、大学は早稲田大学だったんですよ。聞いたら私と同級生。同じ内容で同じキャンパスで4年過ごしてた。それ違つたかもしれない、一人で気分も盛り上がってた。ほんとにもう。それで聞けば地元は京都。京美人来たー!と思って。それまで結婚は意識してなかつたんですけど、一応母親からずっと結婚するならこういう人がいいんじゃない、あなたに合うのはこういう人よ、なんて言われてたんです。同じような会話ができるような人、そして自分より年下、できれば美人さんがいいわねなんていってたら、条件にぴったりあつてはまる。それも話して1時間ぐらいだよね。それで確認したわけ。娘さんでもない、円楽師匠のコレでもない、と。よしこれは大丈夫だ。で、彼氏いるかどうか、結婚してるかどうかも確認をせず



に私、結婚してくれって言ったの。驚きでしょ。そしたら。

◎植野：即答で、はいと答えました。

◎鳴川：3回目ですよ、会つて。ちゃんと話した1時間で運命みたいなものを感じまして、年内のうちに結婚しようと思って、その半年後に結婚したんですよ。

子供生めたら、住まいをどうしよう。
いい物件があつたから引っ越しましよう。
じゃあ何とか買ってみましょう。

◎植野：一喜一憂しながら、1年ぐらい、もうちょっとかな。ようやく子どもを授かることができたら、何だろう…、結婚した年、妊娠したっていう時も、その瞬間瞬間はもちろん幸せいっぱいんですけど、不妊治療が終わって、子どもができて、つわりの時なんかも結構大変な思いをしました。

◎鳴川：一ヶ月ぐらいつわりずっと横になってたんですよ。何も食べられないっていうんだけれども、グレープフルーツは食べられるっていうから私小遣いはたいて、高級果物店の千疋屋に行って毎回600円するグレープフルーツ1個、何とか食べてもらおうと思って買ってきたんです。きれいに、きれいに、性格A型だから、きれいにむいて丸々1個、千疋屋のフルーツだよって。みなさんも1回買った方がいいですよ。全部きれいにむいてちょっとあわてるなっていう時はちょっと食べて、それでこうやって毎回置いておいてたら、1回分ぐらいしてからね、「あのさ、1個ね、横になりながら丸々食べられない



でしょ。もっとちぎって持ってきてなさいよ」って。それを言われた時、これはあたしが合わせていかなきゃいけない?「何言ってんだ、むいてやってんのに、このヤロー」って、そんなこと言つちゃったら喧嘩で終わってる。ただ単にね。私、その間柔軟に対応することを覚えてきたというか、環境に慣れてきたのね。つわりうまく乗り越えて、無事に出産を迎えてという。

◎植野:当時、仕事の都合がありましたので、東京が拠点でないっていう理由で、私の一人暮らしの狭い部屋に、しばらくは一緒に住んでいたんですけどね。

◎鳴川:でも、このままだと子どもが生まれてから住まいをどうしよう、と。ちょうどその頃中古でいい物件があったので引っ越してしまうと。じゃあ何とか買ってみましょうということになりました。せっかくだから。今まで住んでたところに私が転がり込んでたような状況だったから、私も自分の甲斐性でね、名義を少し入れたいと思って。

◎植野:二人で住宅ローンを組めないかっていう相談をしたんですね。

◎鳴川:と思ったら、二人で住宅ローンは組めませんって言われて。私のこの収入の不安定さから。じゃあせめて、共同名義してくれと。男の甲斐性として、自分が住んでる物件に、自分の名前がないっていうことほど情けないことはない。そこ買うから、共同名義ぐらい入れさせると、子どもにも恥ず

かしいからって言って。それから、じゃあローン組みましょうって銀行の会議室に連れて行かれました。借入をしますって言った時に、すごい取り巻きがいらっしゃるんですよ。全部任せているので分からぬけど、あなたの名義入れといたわよぐらいな感じで。行政書士の先生から、銀行のお偉い人からズラーって並んでる。その個室に、大事な判子押さなきやいけないからって、売り主の人も来て、みんなが見てる前で判子押すんですよ。あんなケース初めてでしたけど。それで、自治体に行ったり来たりして処理してるおばちゃんが一人いて、そのおばちゃんがソカツソカツかっこ寄ってきて言ったんです。「この度はご成約ありがとうございます。今回は共同名義ということで」と。私も意気揚々とね、実印持ってきましたんで。これをいよいよ押して共同名義。そうしたら、こう言われたんです。「共同名義、割合がございまして」と。「割合?」割合ってなんだ?それは半々じゃないの?「今回は旦那様の割合が100分の3ということで」。エー!!その時、妻の偉大さを知りましたね。

◎植野:家の割合で言うと、トイレしか…。トイレくらいしかない(笑)。

◎鳴川:私の居場所はトイレってね。よくいろんなステージでギャグで言っていますけど、ほんとに居場所がトイレみたいなね。笑い話でね。はじかれたと思って。男のね、つまらないプライドはいらないんだと、いろんな形があっていいんだと思いましたよ。あんないろんな人のいる前で100分の3って言われて

るんですから、恥どろじやない。顔から火が出るとはこういうことかと思いましたけど。今笑っているのは、子どものために環境を整えて、そういう状況の中で今現在に至ってるということなんですね。間もなく2歳の息子が一人と。まあねえ、でも結婚の問題というと親もうるさかったですね。ずっと芸人やつてるとね、いつ結婚するの、と。結婚したいかしたくないかは当人同士の状況もありますけど、なかなか親の環境もあってね。うちの場合は姉と弟がいるんですけど、どちらも結婚して子宝に恵まれて3人ずつ、孫6人いるところで私一人結婚しないわけ。だからことあるごとに結婚しろ、っていう環境もね、どうかなと思うわけ。で、いよいよ運命で結婚しますって言ったら、母親が「良かった。結婚! これでお母さんは死ねる」って言ったんですよ。ああ、良かった親孝行できたと思って結婚してしばらくしたら「そろそろ子どもはどうなの。あんた結婚しただけで満足しちったやん」って言って。それで子どもが一人できたとなったら「これでお母さん安心、安心して死ねる」って言って。この夏、子どもと2人で帰省したら「そろそろ2人目は」。加減にしろ(笑)。それぞれ家庭の形があるんだから。

夫婦で状況を共有して、柔軟にいること、ポジティブにいることが思いやりの大重要な要素。

◎植野:最後に、フォーラムのテーマもあるので、結婚して良かったなということ、あなた、何ですか。

◎鳴川:私はほんと幸せ、幸せです。あと、絆ということを感じられたということが結婚して良かったなということですね。

◎植野:結婚して良かったなっていうことは、私は一人暮らしが長かったので、上京して、大学入って、そこから十数年ずっと一人で暮らしてたので、単純に誰かと一緒に暮らせるというのは寂しくなくていいですね。なので…

◎鳴川:俺、犬とか猫と違うんだよ。

◎植野:実家暮らしの方はちょっと感覚違うかもしれないけど、一人じゃないっていうのは素晴らしいです。ご飯食べるにしてもやっぱりね、一人じゃね、つまんない、おいしくないし。夫はこういう性格なので落ち込むことってあんまりないのね。だから、常に私も明るくいられるというか、私は機嫌悪くなるっていうのはあるんですけど。

◎鳴川:ありますよ、結構。

◎植野:うまくガス抜きをしてくれる、というのがまず一つ。もう一つは、いつでもいつでも365日ずっと自分のことを確実に思ってくれる人がいるっていう確信。それは何でしょうか。思い上がりでしょうか。

◎鳴川:いや、過信でしょ。

◎植野:それは心強いですよね。生きていく上で、自分が強くいられる。もちろん、自分の親・兄弟は私のこと、多分大事に思ってくれているんですけど、全くの他人で知り合ったのに、他人が自分をずっと強く思ってくれてるっていうことを信じられるのが、すごく私が生きていく上の力。

◎鳴川:その確信を持てるっていうことがこれからずっと一緒にいられる一つのキーワードってこと?



◎植野:うん、だと思う。これが信頼できなくなったらね。

◎嶋川:えー、頑張る、頑張る、頑張る。そこも大事だからね。私が、最後なんで一生一緒にいるためにって。

◎植野:すごいテーマですよね。まだ我々5年しか一緒にいないんですけど。

◎嶋川:そうだけど、最後にちょっと言いたいのは。今、男性というか男の立場からいうと状況がどんどん変わるんです。で、女性の方が対応能力すごい高いと思うんですよ。どんどん状況が変わるその状況をとにかく夫婦で共有をしていく。で、その共有した状況を柔軟に対応していく、その中でずっとポジティブにいるっていうことが私は一緒にいるために大事なことだなと思ってですね。この共有することと、柔軟にいること、ポジティブにいることで3つ合わせると何かっていうと、私の中では思いやりだと思うんですよ。よく思いやりを持ってって言うんですけど、この思いやりって言葉、非常に曖昧なんです。私が体験した中だと、共有して、柔軟にいて、ポジティブにいるっていうことが思いやりの大変な要素。これが増えたり減ったりするんですけど、この3つを大事にしながら常に一緒にいると長いられるんじゃないかなと私はそういうふうに思ってます。これから結婚する方にちょっと言いたいのは、絶対にポジティブでいた方がいいです。ポジティブでいると、経験上ですけど、必ず運が、いい運が来ます。いい運が来るところにチャンスが必ず来ます。私はそう思って信じて生きてきたので、今こういう形でちょっと幸せってことで。

◎植野:結婚に限らず、何でしょう、仕事でも人間関係でも全部前向き、ポジティブでいれば、そういうポジティブな人と出会えるし、運命もポジティブに回っていくな。

◎嶋川 結婚に関して結構ネガティブなことを聞くんですよ。私はできないとか、まだ考えてないとか。そもそも気持ちだけでもポジティブでいるっていうことが、運が来て、チャンスが来るというふうにつながると思っていただけになると、また結婚に対する考え方も前向きになれるのかなと思いますね。最後ですが、我々まだ結婚して5年なんですよ。まだ5年の夫婦が一生一緒にいるためになんてね、こういうテーマで嶋川家の場合ということで今回お話をいただきましたけど。実はね、この間NHKでサンドウィッチマンのお二人とご一緒した時に伊達さん、「今度夫婦で講演会やるんですよ」と言ったんです。一緒に仕事をしますから、うちの社長はね。そしたら、「えっ? 夫婦で講演会って」伊達さんびっくりして「お前、それテーマは何なの」「いや、一生一緒にいるためにです」と言ったら、「お前、それ野村克也夫妻がやるような講演会だ」と言われて。だから結論としてはまだまだなんですよ。やっぱり野村

克也さんとか半世紀ぐらい一緒に月日を重ねての考え方だったり寄り添い方っていうのを提案できると思うんで、50年後ですね、5年なんであと45年後にですね、日本一有名な仲のいい夫婦になれるように。

◎植野:目標に。

◎嶋川:目標に頑張りたいと思いますので、今後とも温かく見守っていただけたらなと思います。

◎植野:母心もよろしくお願ひします。

◎嶋川:あ、どうもありがとうございます。ということで本日のご清聴誠にありがとうございました。

第2部 基調講演 13:45~14:30

『少子化、人口減少時代の若者応援 「働き方改革」で社員の ワークとライフを 応援しよう』

講師:白河 桃子 氏

プロフィール

●白河 桃子(しらかわ とうこ)
相模女子大学客員教授、少子化ジャーナリスト、作家。東京生まれ。慶應義塾大学文学部社会学専攻卒。住友商事、外資系金融などを経て著述業に。山田昌弘中央大学教授との共著「婚活時代」(ディスカヴァー・トゥエンティ)で婚活ブームを起こす。少子化対策、女性のキャリア・ライフデザイン、女性活躍推進、ダイバーシティ、働き方改革などをテーマに著作、講演活動を行う一方、「働き方改革実現会議」「新たな少子化社会対策大綱策定のための検討会」などの委員として政府の政策策定に参画。著書に「専業主婦になりたい女たち」(ボプラ新書)など多数。

最新結婚事情及び企業側がどのように応援していけばいいのかをお話しいただきました。



第3部 パネルディスカッション 14:40~16:00

『しあわせな結婚を応援するために ～それぞれの立場から～』

ファシリテーター／西内 みなみ 氏
パネラー／植野 佳奈 氏、渋谷 順子 氏、
佐藤 英明 氏

プロフィール

●西内 みなみ(にしうち みなみ)
桜の聖母短期大学学長、ふくしま結婚・子育て応援センター スーパーバイザー。愛知県生まれ。東京女子大学卒業、東京大学大学院修了。群馬大学、福島大学非常勤講師。桜の聖母短期大学教授を経て、現在、同大学学長。専門は子育て支援論、教育心理学、児童心理学、他。福島県家庭教育支援地域推進協議会委員長、福島県地域創生・人口減少対策有識者会議委員などを歴任。現在、福島県子ども・子育て会議の副会長・部会長、ふくしま結婚・子育て応援センターのスーパーバイザーを務めている。著書に「愛された自分に出会う時」(ドン・ボスコ社)など多数。



●渋谷 順子(しぶや じゅんこ)
渋谷レックス株式会社 代表取締役。福島市生まれ。日本赤十字中央短期大学(現大学)卒業、医療現場で勤務後、夫・勝広氏との結婚をきっかけに夫の家業である渋谷菓子食品卸売株式会社(現:渋谷レックス株式会社)に入社。手作り職人による「なつ菓子屋」事業などを立ち上げる。2005年、夫の死去に伴い代表取締役を引き継ぎ、現在に至る。2016年、福島市商工会議所主催の経営革新賞を受賞。現在、倫理法人会県副会長、ふくしま結婚・子育て応援センターの世話やき人としても活動中。



●佐藤 英明(さとう ひであき)
二本松市 福祉部 子育て支援課 子ども家庭係係長として結婚支援に携わっている。「結婚お世話役事業」…現在25名が登録しており、うち4名は県の世話やき人と兼任し連携を図っている。旧安達町、岩代町、東和町を含め、各地域でお世話役が活動しており、情報交換会等も定期的に開催している。「出会いの場提供事業」…地元企業や団体との連携により、地域に密着した企画運営を行っている。「結婚新生活支援事業」…結婚支援を、二本松市への定住につなげられるよう地域の魅力発信や経済的負担の軽減等を実施している。



◎西内氏(以下 西):本日、ファシリテーターを務めさせていただきます、西内と申します。本県で実施している結婚・子育て応援センターの事業概要ですが、結婚から妊娠・出産、子育てまで切れ目ない支援をしていきたいということで取り組んでおります。また、ワーク・ライフ・バランスという視点からも、家庭生活だけでなく、企業などで職業生活における様々な取り組みも一緒にしていただきたいということで「ふくしま結婚応援センター企業」の募集をかけております。既に本日フォーラムの事務局をつとめている福島リビング新聞社さんや、ここにご登壇いただいている渋谷レックスさんなどもこの



サポートー企業にお名前を頂戴しております。今後、「ふくしま結婚応援センター企業」がどんどん増えていって私達の活動がより一層定着していけばいいなと期待しています。それではお三方より、それぞれ結婚されて思ったことやその前後で変わられた生活とか考え方などを紹介いただければと思います。

◎植野氏(以下 植):結婚以前、私はいわゆる仕事人間で10時間ぐらいの勤務を一週間、7日間休みなく働き、休みが取れても3~4か月に1日とかそういう、ほんとにハードで不規則な日々を過ごしていました。それが当たり前だったので、今になってみると、一生懸命働いている自分に酔っている部分もあったのかなと思います。結婚すると当然私だけの時間ではなくなるので、極力二人の時間を持とうとか、夜は今日一日の話をしようと、食事をできるだけ作って一緒にとるとか、今まで自分勝手にやっていたことを二人の将来のために時間を使おう、と変わったのは本当に大きな転換だったと思います。

◎西:今度は渋谷順子様に経営者として、また、結婚したい人を応援する世話やき人というボランティアの立場からお話をいただければと思います。

◎渋谷氏(以下 渋):私は福島市内でお菓子の問屋業を営んでいます。創業から66年、三代目になります。13年前に社長である主人が亡くなっていますが、会社を引き継いで今社長をしています。仕事の傍らミニミニ婚活パーティーみたいなものをやっていた時に、世話やき人のお話をいただきました。登録すればもっと活動の範囲が広がるかなと思い、お手伝いさせていただきました。

◎西:お手伝いしてくださっている中で、お気づきになったこ



西 フ

とや課題などがあればぜひ。

◎渋:私が懸念しているのは、せっかくご縁があってもすぐに「NO」の結論を出すこと。本当にもったいない。一番大事なのは条件ではなく、その人を好きということであり、一番大切なことだと思っています。

◎西:最初から出来上がった関係じゃなくて、二人で少しずつ新しい出会い方をし続けていくというのが結婚への道のりなのかな、なんて今伺いながら思いました。

◎渋:結婚という結論を急がなくてもいいと思うんですね。その人をお互いに知ろうとする中からいい関係って作れるんじゃないのかな。

◎西:二本松市の取り組みに私達も注目しています。その取り組みの牽引者でもある佐藤さん、よろしくお願ひいたします。

◎佐藤氏(以下 佐):二本松市役所の子育て支援課に勤務しております、佐藤と申します。私も今から5~6年前、40歳になった時に結婚しました。とっても幸せだと断言できる家庭を持った今、世界が広がったなといった感覚になり、人生の楽しみがすごく増えたなといった気持ちで毎日の生活を楽しく、ポジティブに過ごさせていただいております。二本松市では自治体としまして、結婚の推進ということで2つの事業を展開しております。まず一つは、紹介型のお世話役さんの事業。もう一つは紹介といった形じゃなくて、自分でふれあいの機会を探す「婚活イベント」。商工会議所や地域おこし協議会と地域の魅力を探して発信する活動団体に委託をして、年に6回、婚活イベントを実施しております。お世話役の方につきましては平成19年に最初立ち上げまして、当時は100人弱のお世話役さんがいらっしゃいましたが、平成26年まで成婚に至ったのが1組だけといったような状況でした。そこで平成

27年度からやり方を変えたことで28年度は2組成婚、婚活イベントに参加した方も1組成婚に至ったといった実績があります。笑顔であふれるような街にしたいという思いで結婚を応援させていただいております。

◎西:結婚して仕事を辞めるという女性は今少なくなっているのですが、やはり出産というのが仕事をする女性にとって大きな課題を突きつけますよね。子育てしながらも仕事を続けられる知恵のようなもの、あるいはきっかけになるものがあれば教えていただければなと思います。

◎植:先程の白河先生のお話にもあったのですが、職場環境というのが何よりも大きいと思います。表向きはお母さんの状況に柔軟に対応していただく社内のシステムも必要なんですけれど、やっぱり職場の一人一人がそういう問題をもっと身近に感じて、状況を想像してそれを応援しようという気持ちを持つことがすごく大事じゃないかなと、本当に身にしみて思っています。

◎西:職場に、こういう働き方で仕事も子育ても一緒にやれるという身近なモデルがいることはとても大事だと思います。そういう人を育てていただくのはやっぱり職場のトップの方、経営者の方の考え方の一つだと思うんですけども、渋谷社長、いかがでしょうか。

◎渋:今、子育て中の女性は社内に5人ぐらいいます。正社員になった人が育休を取得すると、明けたところから自分で勤務時間を選べる(午前9時ぐらいから出勤して午後2時や3時ぐらいまでのシフト)方法を選んでいます。正社員からパートになると時給になるのですが、勤務時間を短くしつつも、時給を上げて何とか収入をあまり減らさないようにして、なるべく辞めないで会社に残ってくれる方法を選んでいます。

◎西:それでは二本松市ではいかがでしょうか。

◎佐:制度的にはしっかりと、休みは取りやすいとは思いますが、心配なく休めるようにすることが大切だと聞いています。

◎西:先程、白河先生の方から、結婚は決してゴールではなくて、その先に例えば、出産、育児など家族としての様々な課題が見えてくるというお話をありました。それを阻害なく、結婚、子育てできるよう取り組んでいきたいなと思っております。今まだ結婚に踏み切れない若い人達にとって何が必要か、お知恵をいただければと思います。

◎植:結婚をしよう、したいと思った瞬間に先々のことを考え

すぎない。それぞれの親の介護をどうしようとか、そんなことを考えていたら結婚になんて踏み切れないで、それはおいおいどうにかなると。二人一緒にいたいのでとりあえず結婚しましょうということですよね。それが最初の一歩だなと思います。

◎西:条件だけ並べていい人を探しているわりには結婚に踏み切れないというのが今の現実なんじゃないかなと思いますね。

◎渋:結婚する人は一緒に長くいられる人なんですね。一緒に時間を過ごして疲れない人と結婚した方が楽だと思うんです。条件から入っちゃうと逆に選択肢が狭まる。ここは大切だなと思うことが一つあれば、あとは話し合う中で解決すると思います。情報が多いことってある意味善し悪しですね。

◎西:先程白河先生が、今はネット社会で、大海の中で自分にマッチングをする人を探す時代になっていて逆に難しくなった、ということも話されていました。

◎佐:一歩を踏み出すっていう時、ビビッと感じるものや勢いは必要なのかなと。今現状だけで捉えるのではなく、ポジティブな考え方で結婚に向かって進んでいなければいけないかなと思います。自分で積極的にいける方ばかりではなく、個人の性格や行動には差がありますから、積極的にいけない方は婚活を支援するスタッフの皆さん方がちょっと後押しをして会話ができるようにしてあげるとか、そういうサポートが必要なのかなと感じています。

◎西:共にご飯が食べられる相手がそばにいるって本当に素敵なことだなって思うんですが、佳奈さん、いかがでしょうか。何か結婚の良さをちょっとお話しいただけませんか。

◎植:やっぱりいつも自分を思ってくれている人がいるっていうことが自分の自信にもつながります。生きていく上で、つらいことって結構いっぱいありますでしょ。最終的に戻れる場所がある、ここに帰れば安心を得られるっていうのが家庭だったり、結婚だったりと思います。ただ、ご実家暮らしの若い方とかだとあんまりそういうのはないのかなと。

◎西:結局親と一緒に暮らしていると困らないし、寂しくないので、結婚に踏み切らないというケースが多いようなんですけど。

◎植:それは親御さんにも責任がありますよね。学校を卒業したら外に出さないとね(笑)。寂しさを経験させないと誰かと

暮らしたいと思わないですね。

◎西:親との関わりで結婚がちょっとしづらくなっている現実かもしれない、お話しいただけますか。

◎渋:親離れ、子離れをきっちりしないと結婚してもきっとうまくいかないと思います。親が子離れしてあげないと、親が介入した中の夫婦間の絆はつくれないんじゃないかと思うんです。やっぱり結婚って、ある意味覚悟をしないと。いいことばかりでも、悪いことばかりでもないですけれども、結婚生活を維持するっていう意味であれば、自分で考えて、自分でコトを決めて動かすっていう力がないと、きっと乗り越えられない感じます。

◎西:佐藤さんも奥様のご実家とご自分のご実家とうまいバランスを取りながら今暮らしていらっしゃるということですけど。

◎佐:うちの妻と私の実家のちょうど間に住んでいます。私は当然、一番大事に考えるのが妻のこと。次に大事にするのが、妻の実家。うちの妻は私の実家を優先して、お互いに相手の実家を大事にしているというような感じです。

◎西:相手の家族を大事にするっていうことですね。今日は「幸せな結婚を応援するために」というテーマを掲げさせていただいている。それで、今それぞれ地域でご活躍いただいている立場、もしくは今日パネリストとしてここにご登壇していただいた立場で、何かアイデアやお知恵などがあればぜひ建設的なご意見をいただきたいです。

◎佐:二本松市の魅力やいいところを知っていただきたいということがまず大前提にあります。それを知っていただいた上で、市に定住していただきたいというのがございます。二本松市は第二子以降の保育料を無料にしたり、学童保育所が充実していたり、助成もいろいろ展開はしております。一番大事なのは人のつながりや温かさを知っていただくことです。将来、よりよい二本松をつくっていくのに役立つと考えて



おりますので、地域の魅力発信という部分は十分に考えていただきたいです。

◎西：では渋谷さん、世話をき人としていろいろご支援いただいてきたと思うんですが…。

◎渋：結婚の後に出産とか育児とかいろんなことが当然起きくるんですけども、もっと周りの人に助けて欲しいって声を上げた方がいいと思います。核家族が多い今の世の中で、声をあげることは難しいとは思いますが、私はいろいろな方に助けてもらって子どもを4人育てました。人嫌いがなく、自分のことが自分でできる大人に育ってくれて本当に良かったと思っています。社員はいろいろな環境の中で育ってきた子がいます。なので、入社した時には「思考塾」を開いています。また、経営の基本方針を伝える「レックス塾」も月1回開くなど教育体制を整えてきました。

◎西：やはりどうしても、幸せな結婚について議論していると子育てと切っても切り離せない話になりますよね。それも踏まえて結婚・子育て応援センターは切れ目のない支援をしていくという形をとらせていただいております。

◎植：親離れ、子離れはしなくちゃいけないんですけども、おじいちゃん・おばあちゃんが一緒にいる環境で子どもが育てられる環境がある方は感謝して、家族みんなで子どもを育てていただきたいと思います。東京は、ベビーシッターがシステムとしてかなりしっかり確立はされているので、そういうところにお金を払わざるを得ないんです。他に選択肢がないので…。なので、本当はもっと子どもが欲しいとは思うんですが、この状況で果たしてもう一人育てられるかっていうとなかなか自信がなくて…とにかく、人ですよね。保育園というよりはその人、その家族ごとに合った手助けをお願いしたい。どこまでそれぞれに柔軟に対応できるかというと難しいんですけど、子育てに関わる人をもっと増やして欲しいと思います。



◎西：実際、結婚がゴールじゃなくて次に子育て、となった時、実家が近いとか、相手の親御さんにもちょっと子育てを助けてもらえるかもしれないというのは素敵な選択肢だと思います。福島で暮らしていて、その良さにお気づきになってる方もいるんじゃないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

◎渋：私は娘に子育てを手伝ってもらうということはありませんでしたが、仕事で忙しかったこともあります。いろんな人に子どもを可愛がってもらいました。結果的に子どもにとって良かったなと思っています。

◎西：二本松ではそういう切れ目のない支援体制というのはかなり充実しているんですよね。

◎佐：全国的にも、出産から子育てまで、子育ての包括支援センターのような役割を整えたり、出産からライフステージに合わせた支援をしていきましょうという動きはあります。二本松市の場合ですと、乳児期から保健師さんたちが関わっていて、ずっとわが子のようにその子のことを知っていたりします。そのような方々の経験が市の力になっているのかなと思います。あとは先程渋谷さんの方からもありましたが、地域みんなで子どもを育てる、見守っていく、育っていく。子どもが社会性も学んでいくような環境がつくれればいいかなと考えています。

◎西：最後にお一人ずつ、お気づきになったことや感想などをお願いします。特に今日は大きなテーマとして「結婚応援」フォーラムということを掲げておりますので、そういうことも少しからめていただきながら、お一人お一人にお話しいただければと思います。

◎佐：結婚を応援するということが、結婚という一時の話だけではなくて、家族をずっと支えていく、家族がずっと続くという前提の中で、しっかりと支援をしていかなければいけないと思います。子育て、結婚後の大変さや苦労をサポートできるよう



仕組みをつくりたいなと思っています。地域密着のイベント等を通じて地域の魅力を伝えていきたいですね。

◎渋：結婚って、自分が生きている人生にパートナーの人生の分も追体験ができる。そして、子どもを持つて子どもを通してまた追体験ができる。人間としての幅や厚みや思考など、いろいろなことを見ることで、一つずつ一年ごとに、人として成長できると思います。結婚生活は何十年も続きます。私も、その中で自分が幸せを感じながら暮らしていくお手伝いができるかもしれません。

◎植：結婚は、人間が生まれて男と女が会って一緒に生きていきたいなっていうことからスタートします。自分の今までの結婚生活、生き様というのをちゃんと下の世代とか、お若

い方に、未婚の方にどんどん伝えていくっていうことをしなきゃいけないと、今日一日参加させていただいて思いました。みなさんにも、今日から結婚を望む方に向けて、こんなにうちは幸せだよ、いろいろあるけど幸せなんだよって声を大にして言い切っていただきたいと思います。

◎西：与えられた時間と場所と、それから一緒に共有した体験を持てる、赤い他人同士っていうのが夫婦じゃないかなと思います。そういう関わりをこの自分の短い人生の中で与えられたことに本当に心から感謝して、今日お集いくださいたお一人おひとりが身近な方に、今日聞いた体験談や様々な出会いについて伝えていただければと思います。それが私たちが目指している一番大きな結婚の応援なんじゃないかなと思っています。
(以上)

【来場者アンケート集計結果】

